# Ⅴ　研究全体構想図

**国語科教育の今日的課題**
- 日常生活の様々な場面で主体的に活用できる「知識・技能」の習得
- 未知の状況に対応できる「思考力・判断力・表現力」の育成
- 学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性」
- 「主体的・対話的で深い学び」の実現

**学校教育目標**

よく考える子ども　〔かしこく〕
思いやりのある子ども　〔やさしく〕
健康でたくましい子ども　〔たくましく〕

**児童の実態**
- 友達の意見を共感的に聞くことができる。
- 課題に対して一生懸命取り組むことはできるが，自分から学び方を選択したり,付けた力を生かそうとしたりするには至っていない。
- 語彙の少なさや経験不足から長い文章の読み取りが苦手である。
- 「わけは～だからです。」と付け足して話せる児童は多い。根拠を明確にしてより自分の考えに説得力をもたせる意識を高めたいところである。

**めざす子ども像**

○真剣に話を聞き，進んで発言し，集中して最後まで学習する子ども

○自分の基礎的な学習内容を身に付け,理解している子ども

○言葉に着目して論理的に考えを形成し，表現できる子ども

**教師の願い**
- 基礎・基本を身に付け，主体的に文章を読む子ども
- 互いに考えを理解し合い、新しい見方や考え方をみんなで見いだしていくことができる子ども
- 国語科で身に付けた知識や技能を日常生活や他教科で生かせる子ども

**研　究　主　題**

自ら考え　伝え合う子どもの育成
～言葉に着目して論理的に考える学習活動を通して～

**めざす授業像**

○子どもたちが，主体的に読んだり書いたり伝えたりする授業
○子どもたちが，言葉に着目して論理的に考え，学びを深めたり広げたりする授業

**研究目標**

自ら考え，伝え合う子どもの育成をめざし，国語科において論理的に思考する学習活動を位置付けた指導のあり方について授業実践を通して明らかにし，学習指導の改善を図る。

**研究内容**

○子どもたちが主体的に学習するための授業づくり
（1）単元計画・単位時間の流れの明確化
（2）学びの自覚や活用につなげる振り返り

○言葉に着目して論理的に考え，交流を通して考えを深めるための工夫
（1）言葉に着目する方法の明確化
（2）交流のしかたの工夫

**学びを支える取組**

◇　学習規律の確立　・基本的な学習態度の徹底
◇　ＩＣＴの活用　・児童用端末を思考・表現のツールとして効果的に活用する。
◇　読書の重視　・朝読書，家庭での読書（平日３０分を目標）・読書月間．本について交流する時間の設定
◇　言葉の理解　・「ことばのきまり」の活用　・学期ごとの「言葉チャレンジテスト」
◇　音読の重視　・毎日の家庭音読　・学期ごとの音読週間　・音読名人の紹介
◇　家庭学習の充実　・家庭学習計画表　・家庭学習ノート交流